

§ 1. 活動方針

昭和 60 年度、61 年度、62 年度に引続き日常携わっている設計作業の中で問題となった事例を、- 会合 - テーマの原則のもとに、各種基準の比較を踏まえながら検討討議を行い、鋼橋技術に従事する一線の技術者に情報交換の場を与えることとする。

また昭和 61 年度から鋼橋の設計に寄与する具体的な成果を上げるべく具体的活動(隅角部の設計法)が完了した。

§ 2 各会合記録

第 21 回 昭和 62 年 5 月 11 日 場所: 石川島播磨重工業(株)

- 内容
1. 横梁構造における問題点について
 2. 偏平多室箱桁における横リブと主桁ウェブの連結部について

第 22 回 昭和 63 年 7 月 20 日 場所: 早稲田大学

- 内容
1. 関西での合成桁の限界状態設計法の考え方について

第 23 回 昭和 63 年 9 月 21 日 場所: 早稲田大学

- 内容
1. 支持桁の不等沈下を考慮した床版厚の算出